

隅田川橋梁群の分類と分析

Classification and Analysis of Bridges on Sumida River

逢澤正行*
By Masayuki AIZAWA*

1. はじめに

隅田川は、水都であった江戸・東京の都市骨格を形成し、内包する橋梁群は隅田川を特徴づける顕著な景観資源であるといえる。にもかかわらず、流域全体で鉄道橋を含めて30橋ある橋梁群の全体なイメージを把握し、それを基に母胎である隅田川の将来像を議論することは困難である。これは、隅田川橋梁群についての研究が復興橋梁群を含む著名橋を中心として行われ^{1), 2), 3)}、現況の全橋梁群の意味づけがなされてこなかったことによる。

後述するように、同じ隅田川のなかには、「隅田川であった流域」と「隅田川になった流域」が混在すると共に、下流域には隅田川の南端を特徴づけ南門ともいうべき永代橋ないし勝鬨橋が存在するのに対して、上流域には岩淵水門を除いてランドマークとなりうる構造体または橋梁が存在していない。すなわち、形式形態の違いに加え、本来の意味の異なる橋梁群が混在していることが全体像を見えにくくしている原因といえる。

よって、本論文においては、隅田川橋梁群の全体像を把握し、それを基に母胎である隅田川の将来像を議論するための基礎データとする目的で、時間軸・空間軸で全橋梁群を分類し、それぞれのブロックの特徴を分析した上で、全体像の再構築を試みることにする。尚、本論文において鉄道橋まで含めたのは、田中豊設計の総武線鉄道橋のように歴史的・景観的に無視しえない鉄道橋が存在するからである。

2. 隅田川橋梁群の分類

時間軸および空間軸で隅田川橋梁群の分類を行う。

キーワード：景観、空間整備・設計

*正会員 工博 日本工営株式会社 景観設計推進センター長

〒107 東京都千代田区麹町5-4

TEL: 03-3238-8268, Email: a5365@n-koei.co.jp

(1) 時間軸による分類

表-1に隅田川橋梁群30橋の創架・改架年度を示す。白抜きは現在使用されている橋梁群であり、白抜きの左側（過去側）の黒丸は過去の創架・改架を、右側（未来側）の黒丸は橋梁形式を維持した状態での増設を表す。尚、本論文では現況の橋梁群を中心に考察することより、関東大震災（1923）以降のデータを表記している。現況において使用されている最も古い橋梁は、1926年12月に改架された永代橋（05：河口部からの通し番号、以下同）であり、現時点を基準に考えれば、74年の間に隅田川橋梁群30橋の創架・改架が行われてきたことになる。ここで、震災復興橋梁群が短期間に集中して創架・

表-1 時間軸による分類

No.	橋名	架橋年	1930	40	50	60	70	80	90	2000
01	勝鬨橋	1940								
02	佃大橋	1964								
03	中央大橋	1993								
04	相生橋	1999								
05	永代橋	1926								
06	隅田川大橋	1979								
07	清洲橋	1928								
08	新大橋	1976								
09	高速隅田川大橋	1971								
10	両国橋	1932								
11	総武線鉄道橋	1932								
12	蔵前橋	1927								
13	慶橋	1929								
14	駒形橋	1927								
15	吾妻橋	1931								
16	東武線鉄道橋	1931								
17	言問橋	1928								
18	桜橋	1985								
19	白鬚橋	1931								
20	水神大橋	1988								
21	日比谷線鉄道橋	1962								
22	常磐線鉄道橋	1927								
23	千住大橋	1927								
24	京成線鉄道橋	1931								
25	尾竹橋	1992								
26	尾久橋	1968								
27	小台橋	1992								
28	豊島橋	2002								
29	新田橋	1961								
30	新神谷橋	1965								

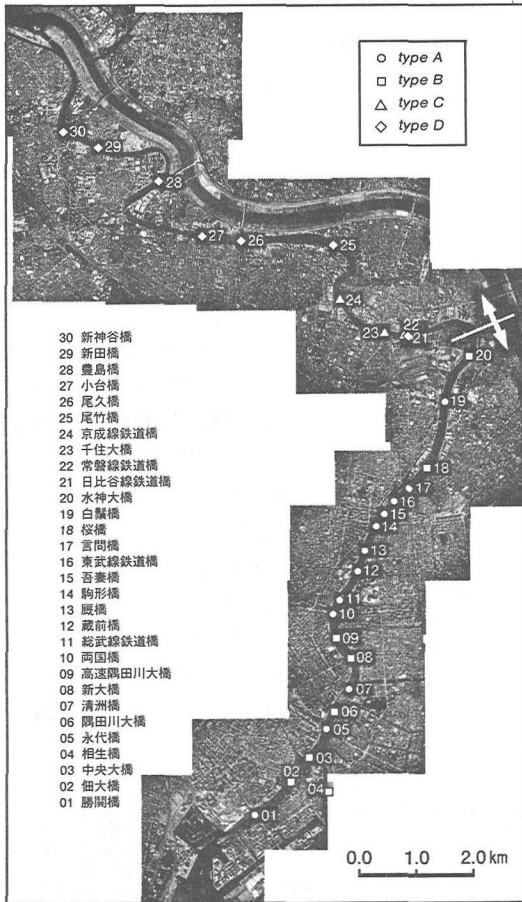


図-1 空間軸による分類

改架されたことを考慮しても、隅田川橋梁群の創架・改架年には顕著な偏りがある。すなわち、1941年（太平洋戦争開戦年）3月の新田橋（29）創架（木橋）から1961年2月の新田橋（29）改架（鋼橋）までの20年間、隅田川では新橋の創架も在来橋の改架も行われていない。現況の隅田川橋梁群において10年以上の間、創架・改架が行われていないのはこの期間だけである。よって、この空白期間を境界として前期・後期に分類する。尚、後者については第2次大戦後に架けられた橋梁群として扱われるケースもあるが、20年の空白期間を考えれば、高度成長期以降に架けられた橋梁群とするのがより正確な表現である。

（2）空間軸による分類

図-1に隅田川橋梁群30橋の架橋位置図を示す。現在の隅田川は岩淵水門より東京湾河口部までひと

表-2 時間軸・空間軸による分類 1

（空間軸は連続するが、時間軸は連続しない。）

	前期	後期
下流域	type A	type B
上流域	type C	type D

つの河川（総延長23.2km）であるが、旧綾瀬川合流部（図中の矢印部）から上流域は、1965年の河川法改正により荒川放水路が荒川本流になったのに伴い、荒川から隅田川に河川名が変更された区間である⁴⁾。河川名称から隅田川を空間的に区分すれば、現在の隅田川には、隅田川であった流域（下流域）と隅田川になった流域（上流域）の2種類が混在することになる。隅田川最初の橋といわれている千住大橋（23）は、創架時（1594年）には足立郡荒川の橋梁であり⁵⁾、現況のアーチ橋改架時（1927年）にも名称的には荒川の橋梁であった。尚、千住大橋（23）までを下流域（もともと隅田川であった流域）とするケースもあるが、本論文の対象期間が現況橋梁群の架橋された関東大震災以降であることより、上下流の境界は旧綾瀬川合流部とする。

（3）時間軸・空間軸による分類

時間的には20年の空白期間の前後で2種類（前期・後期）の橋梁群に、空間的には隅田川であった流域と隅田川になった流域の2種類（下流域・上流域）の橋梁群に分類することが可能である。両者を掛け合わせるにより、隅田川橋梁群30橋を4ブロック（表-2）に大別することとする。

3. 隅田川橋梁群の分析

時間軸・空間軸で4ブロックに分類した橋梁群の特徴を分析する。

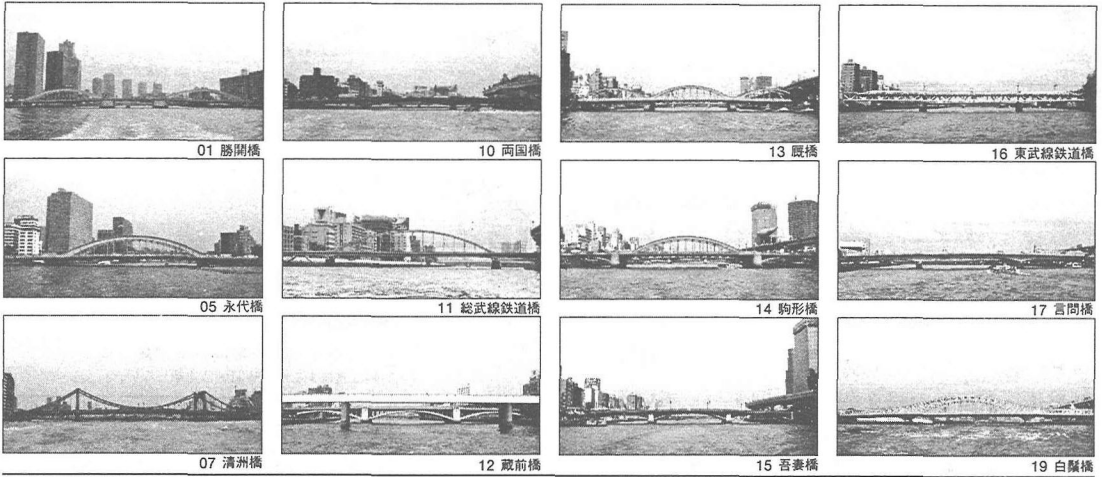
（1）分析方法

全橋について、同一条件（河川中央部、下流から上流を望む）でシルエット（プロポーシオン）の撮影を行った（図-2）。撮影日は2000年4月7日から14日までである。

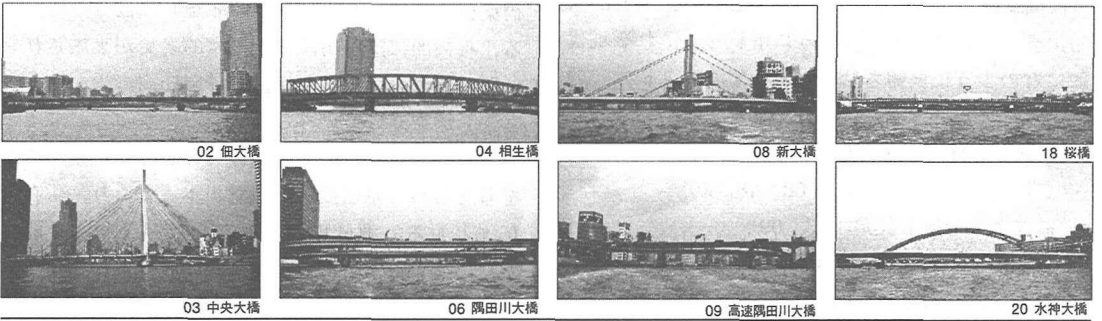
（2）結果と考察

伝統的隅田川橋梁群（type A）との関係より、各ブロックは現代的隅田川橋梁群（type B）・伝統的旧荒川橋梁群（type C）・標準的河川橋梁群（type

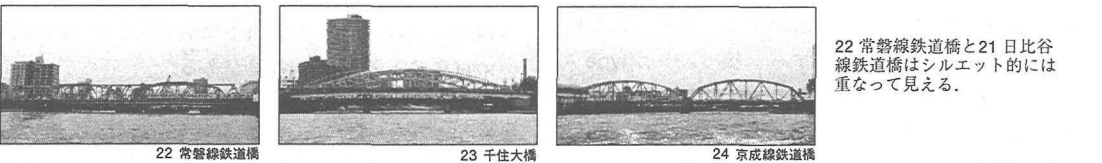
○ type A



□ type B

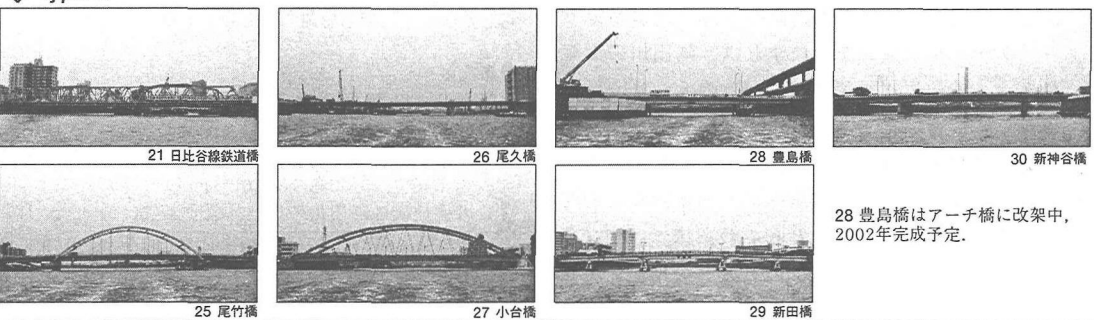


△ type C



22 常盤線鉄道橋と21 日比谷線鉄道橋はシルエット的には重なって見える。

◇ type D



28 豊島橋はアーチ橋に改架中、2002年完成予定。

図-2 プロポジションの比較 (時間軸・空間軸による分類)

D) と特徴づけることができる (表-3) .

(a) type A : 下流域・前期

復興橋梁群を中心とする伝統的隅田川橋梁群であ

り, 他のブロックの方向性を決定する基準となる橋梁群である。復興橋梁群に関する研究は多々あり, 例えば, 伊東は橋梁のヒエラルキーの観点から¹⁾,

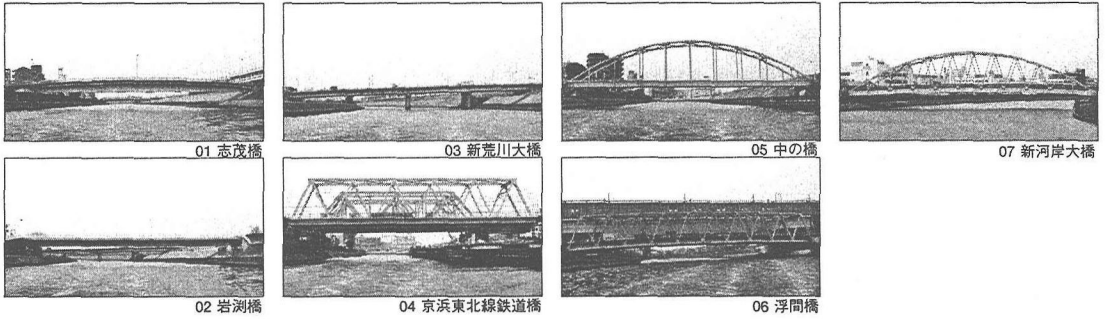


図-3 新河岸川橋梁群 (新河岸大橋より下流側)

塩見はライン川やドナウ川との比較により積極法・融和法・消極法の観点から²⁾考察を行っている。

(b) type B : 下流域・後期

type Aの伝統的隅田川橋梁群と同一流域に数十年の時間を隔てて架橋されていることから、伝統的隅田川橋梁群の意味をどのように解釈し、それを現代的にどのように展開させているかで次の3種類に分類することができる。

- ・ 伝統的形態を継承 (02, 04)
- ・ 伝統的形態に対抗 (03, 08, 18, 20)
- ・ 機能から形態を決定 (06, 09)

(c) type C : 上流域・前期

type Aの伝統的隅田川橋梁群と同一時期に連続的に連なる流域(旧荒川)に架橋されたことから、伝統的隅田川橋梁群と同様の形態をとりながら固有の性質も有する。千住大橋のアーチ橋(23)がtype Aに架設されていたと仮定して、現在のような増設(1975)がなされていたかは疑問である。

(d) type D : 上流域・後期

type Aの伝統的隅田川橋梁群との関連性は希薄であり、スケールの違いを別にすれば、隅田川の上流に位置する新河岸川橋梁群(図-3)の方がより類似な橋梁群形態といえる。桁橋+通常のアーチ橋+トラスの鉄道橋という組み合わせは、標準的な河川空間の橋梁群によく見られるパターンである。標準的河川橋梁群に「隅田川の橋」としての意味づけがなされている点に前述の全橋梁群のイメージ把握を困難にしている一因があるといえる。

4. おわりに

隅田川橋梁群は、時間軸・空間軸により、伝統的隅田川橋梁群・現代的隅田川橋梁群・伝統的旧荒川

表-3 時間軸・空間軸による分類 2
(空間軸は連続するが、時間軸は連続しない。)

	前期		後期
下流域	伝統的隅田川橋梁群		現代的隅田川橋梁群
上流域	伝統的旧荒川橋梁群		標準的河川橋梁群

橋梁群・標準的河川橋梁群の4種類に区分可能である。将来的に隅田川流域の根本的変更が実施されない限りこれらの橋梁群は同じ「隅田川の橋」として存在・改架されていくことになる。よって、「本来の隅田川とはどこか」についての意味の肯定的変形を考える時(荒川放水路が荒川本流となり、現在の荒川に至る、意味の肯定的変形とパラレルな関係で)、橋梁群を含んだ「隅田川の再定義」がなされなければならないのではないだろうか。

今後の課題としては、各橋梁の個別の設計意図からの積み上げ、それらを加えた隅田川橋梁群の全体像の再構築と将来像の考察がある。

謝辞

本論文の資料収集では、卒論指導をした縁で、東京大学大学院景観研究室の崎谷浩一郎君(M2)に助力をもらった。ここに記し感謝するものである。

参考文献

- 1) 伊東孝: 東京の橋, 鹿島出版会, pp.89~pp.160, 1986
 - 2) 塩見弘幸: 都市河川に架かる橋梁の景観, 中部大学工学部紀要, 第26巻, pp.109~pp.119, 1990
 - 3) 米盛公儀: 隅田川の橋, 橋梁と基礎, pp.9~pp.15, 1987
 - 4) 鈴木理生: 江戸の川・東京の川, pp.12~pp.21, 平文社, 1989
 - 5) 廬田伊人: 新編武蔵風土記稿, 雄山閣, 第7巻, pp.132~pp.133, 1996
- 年表については,
- 6) 墨田区立緑図書館: 隅田川の橋, 墨田区立緑図書館, pp.83~pp.86, 1993
 - 7) 隅田川市民交流実行委員会: 都市の川 隅田川を語る, 岩田書院, pp.319~pp.347, 1995